

平成 24 年度 臨床指標

平成 25 年 6 月 11 日

箕面市立病院

臨床指標とは、医療の質を具体的な数値で示したものです。

臨床指標は、それぞれの病院の特徴によって数値が異なる場合があります、病院間で直接比較できるものではありませんが、この指標を公表し、改善の取組みを行うことで医療の質の改善につながる事が知られています。

広く取り組まれている日本病院会の QI プロジェクト指標を参考に当院の平成 24 年度臨床指標項目を作成しましたのでご報告致します。

1. 死亡退院患者率

死亡退院患者率は医療施設の特徴（病床数、救命センターや集中治療室、緩和ケアに対する取組み、地域の特性など）によって異なり、単純に病院間で比較できるものではありません。

分子	死亡退院患者数
分母	退院患者数
除外	除外基準に当てはまる方はおられませんでした。
評価	より低い値が望ましい

結果

当院の死亡退院患者率は 2.1% でした。

(参考とした QI プロジェクトの中央値は 4.0% でした。)

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	10	9	14	12	10	13	19	13	22	21	13	16	172
分母	670	662	706	692	757	605	655	690	745	630	642	720	8174
割合(%)	1.5	1.4	2.0	1.7	1.3	2.1	2.9	1.9	3.0	3.3	2.0	2.2	2.1

2. 入院患者の転倒転落率

入院中の患者の転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。

転倒・転落の指標としては、転倒・転落によって患者に傷害が発生した損傷発生率と、患者への傷害に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者をあわせて評価し、転倒・転落の要因を分析して発生を防止する取組みを行います。

分子	① 医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポーが提出された転倒落件数 ② 医療安全管理室へインシデント・アクシデントレポーが提出された転倒落件数のうち損傷レベル4以上の転倒・転落件数
分母	入院のべ患者数
除外	入院患者以外の転倒・転落
評価	より低い値が望ましい

結果

① 当院の転倒転落率は 2.54‰でした。

(参考とした QI プロジェクトの中央値は 2.22‰でした。)

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	26	19	24	22	34	23	27	17	18	18	19	26	273
分母	8,890	9,281	8,989	8,927	9,338	8,618	8,946	8,751	8,804	8,892	8,598	9,414	107,448
割合(‰)	2.92	2.05	2.67	2.46	3.64	2.67	3.02	1.94	2.04	2.02	2.21	2.76	2.54

‰は1/1000 を表す単位です

② 転倒転落が発生し、レベル4以上の損傷（骨折、急逝硬膜外血腫など）となった損傷発生率は0.07‰でした。

(参考とした QI プロジェクトの中央値は 0.00‰でした。)

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	2		1	2					1		2		8
分母	8,890	9,281	8,989	8,927	9,338	8,618	8,946	8,751	8,804	8,892	8,598	9,414	107,448
割合(‰)	0.22	0.00	0.11	0.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	0.00	0.23	0.00	0.07

‰は1/1000 を表す単位です

3. 退院後 6 週間以内の救急医療入院率

再入院は、全く別の疾患で入院される場合、計画的に入・退院を繰り返しながら治療される場合、初回治療が不十分である場合、治療した疾患が悪化する場合があります。

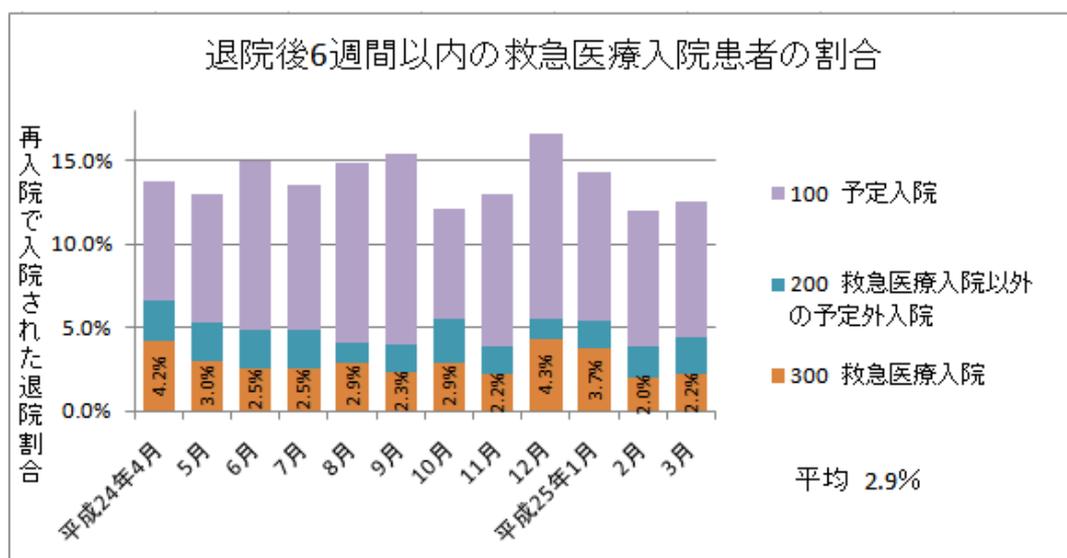
分子	退院後 6 週間以内の救急入院患者数
分母	退院患者数
評価	より低い値が望ましい

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	28	20	18	17	22	14	19	15	32	23	13	16	237
分母	670	662	706	692	757	605	655	690	745	630	642	720	8,174
割合(%)	4.2	3.0	2.5	2.5	2.9	2.3	2.9	2.2	4.3	3.7	2.0	2.2	2.9

なお、予定入院を含めた再入院の割合は下記のグラフで、平均 13.8%でした。

また、厚生労働省で公表されている平成 23 年度 DPC 影響調査では同規模病院の全国平均 13.92%に対し、当院 12.78%*でした。

(DPC 影響調査は、医科保険対象の患者に絞ったデータを元に行っているため、院内のデータと差ができます)



4. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の発生率（リスクレベルが中リスク以上）

急性肺血栓塞栓症は下肢あるいは骨盤内静脈の血栓が原因とされており、整形外科、消化器外科、産婦人科手術の術後に安静臥床が長い患者で注意を要する術後合併症の一つです。

分子	分母のうち、入院後発症疾患名に「肺塞栓症」が記載されている患者数
分母	肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者数
評価	より低い値が望ましい

結果

今回の調査期間中、入院後に肺血栓塞栓症を発生された患者はおられませんでした。

5. 手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率（リスクレベルが中リスク以上）

肺血栓塞栓症及び深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドラインに準じて中リスク以上とされる手術患者に対し、予防策を行っている率です。

分子	分母のうち、「血栓塞栓症予防管理料（弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫装置を用いた計画的な医学管理）が算定されている、あるいは抗凝固薬が処方された患者
分母	肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者数
評価	より高い値が望ましい

結果

実施率は95.4%でした。

（参考としたQIプロジェクトの中央値は95.2%でした。）

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	106	94	97	95	106	87	81	95	114	92	81	94	1,142
分母	110	97	98	97	110	96	86	107	117	95	85	99	1,197
割合(%)	96.4	96.9	99.0	97.9	96.4	90.6	94.2	88.8	97.4	96.8	95.3	94.9	95.4

6. 褥瘡発生率

褥瘡は患者の QOL（Quality of Life：生活の質）を低下させるとともに感染を引き起こす要因になります。

分子	分母対象患者のうち、d2 以上の褥創の院内新規発生患者数
分母	入院のべ患者数
除外	日帰り入院患者、入院時すでに褥瘡保有が記録されている患者
評価	より低い値が望ましい

結果

褥瘡発生率は 0.05% でした。

(参考とした QI プロジェクトの中央値は 0.06% でした。)

	平成 24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成 25年 1月	2月	3月	年間
分子	5	4	7	4	7	2	2	4	6	3	3	3	50
分母	515	704	737	799	864	976	929	805	567	653	776	796	9,121
割合(%)	0.06	0.05	0.08	0.05	0.08	0.03	0.02	0.05	0.07	0.04	0.04	0.03	0.05

7. 糖尿病患者の血糖コントロール HbA1c<7.0%

薬物療法を受けている糖尿病患者の血糖コントロールが適切にできているかを観察しています。

直近の1年間に外来で90日以上治療を受けている患者の該当期間の最後のHbA1cの値が7.0%以下の患者の率を求めています。

分子	HbA1cの最終値が7.0%未満の患者数
分母	糖尿病の薬物治療を外来で90日以上施行されている患者数
評価	より高い値が望ましい

結果

HbA1cが7.0%未満の患者の率は47.1%でした。

(参考としたQIプロジェクトの指標で中央値が公表されている平成23年4月～平成24年3月の中央値は45.7%でした。)

	1回目: 平成23年7月 ～ 平成24年6月	2回目: 平成23年10月 ～ 平成24年9月	3回目: 平成24年1月 ～ 平成24年12月	4回目: 平成24年4月 ～ 平成25年3月	年間
分子	357	408	432	376	1,573
分母	795	835	854	855	3,339
割合(%)	44.9	48.9	50.6	44.0	47.1

参考文献：

- 1) 2011年度QIプロジェクト(QI推進事業)結果報告. 日本病院会. 2012
https://www.hospital.or.jp/qip/pdf/qi_20121004_02.pdf
- 2) 国立病院機構臨床評価指標計測マニュアル. 国立医療学会. 2012